

## Lesson37

被動動詞(V 受身形) 「V れる」「V られる」→被動助動詞

I グループ⇒把「う段」音改成「あ」段音+「れる」

II グループ⇒「る」改成「られる」

III グループ⇒ 来る⇒来られる      する⇒される

被動動詞句

名詞 1 (人) は 名詞 2 (人) に + 被動動詞 (V)
----------------------------------

直述句

被動動詞句

1) <sup>せんせい</sup>先生は <sup>わたし</sup>私 <sup>ほ</sup>を褒めました。→ <sup>わたし</sup>私は <sup>せんせい</sup>先生 <sup>ほ</sup>に褒められました。

↑行為者 A (A 誇獎 B)

↑接受行為者 B (B 被 A 誇獎)

<sup>せんせい</sup>先生は <sup>わたし</sup>私 <sup>しか</sup>を叱りました。→ <sup>わたし</sup>私は <sup>せんせい</sup>先生 <sup>しか</sup>に叱られました。

↑行為者 A (A 責罵 B)

↑接受行為者 B (B 被 A 責罵)

2) <sup>しゅにん</sup>主任は <sup>わたし</sup>私 <sup>しつもん</sup>に質問をしました。

→ <sup>わたし</sup>私は <sup>しゅにん</sup>主任 <sup>しつもん</sup>に質問をされました。

3) <sup>がくせい</sup>学生は <sup>きむらせんせい</sup>木村先生 <sup>そんけい</sup>を尊敬しています。

→ <sup>きむらせんせい</sup>木村先生は <sup>がくせい</sup>学生 <sup>そんけい</sup>に尊敬されています。

4) <sup>やまだ</sup>山田さんは、ときどき <sup>せんせい</sup>先生 <sup>しか</sup>に叱られます。

5) おかしいことを <sup>い</sup>言ったので、<sup>わたし</sup>私は <sup>みんな</sup>みんな <sup>わら</sup>に笑われました。

6) <sup>せんせい</sup>あの先生は <sup>がくせい</sup>学生に <sup>そんけい</sup>尊敬されています。

以上例句中分別以助詞「を」、「に」表現的「接受行為的人（名詞 1）」

表：非關個人利害的、無情物或抽象事物受到某動作之「被動」

例)

- ・ この仕事は <sup>しごと</sup> 女 <sup>おんな</sup> に <sup>きら</sup> 嫌われて います。
- ・ <sup>じゅうはっさいみまん</sup> 十八歳 <sup>ひと</sup> 未満の人の喫煙は <sup>きつえん</sup> 法律 <sup>ほうりつ</sup> で <sup>きん</sup> 禁じられて います。
- ・ <sup>まちじゅう</sup> 町中 <sup>ゆき</sup> が 雪 <sup>おお</sup> に 覆われて います。

※被動動詞句常使用於非關個人利害的社会現象或自然界的現象

名詞 1 は 名詞 2 (人) によって 被動動詞 (V)
-------------------------------

- ・ <sup>げんじ</sup> 源氏 <sup>ものがたり</sup> 物語は <sup>むらさきしきぶ</sup> 紫式部に <sup>か</sup> よって 書かれました。
- ・ <sup>でんわ</sup> 電話はベルによって <sup>はつめい</sup> 發明 されました。

※ 「 <sup>か</sup> 書く 、 <sup>はつめい</sup> 發明する 、 <sup>はっけん</sup> 發見する 」

行為者不用「に」、而是「 に よって 」表示

名詞から／名詞で つくられます
-----------------

- ・ <sup>さけ</sup> お酒は <sup>こめ</sup> 米 <sup>つく</sup> から 造られます → 化学
- ・ <sup>にほん</sup> 日本の家は <sup>いえ</sup> 木 <sup>き</sup> で <sup>つく</sup> 造られます → 物理